

令和7年度 第1回京都府立図書館協議会 議事要旨

1 開催日時

令和7年7月4日（金）13時30分から15時30分まで

2 場所

京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町）

3 出席者

安達佳代子委員（zoom参加）、荒田和子委員、伊澤慎一委員、大塚正広委員、桂まに子委員、潮江宏三委員、永田紅委員、西村明彦委員、原田隆史委員（会長）、松下亜樹子委員

4 会議の内容

- （1）令和6年度取組に係る内部評価について
- （2）令和7年度事業計画について
- （3）京都府立図書館サービス計画について

5 協議事項

- （1）令和6年度取組に係る内部評価について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
 - 委員意見
 - ・市町村立図書館への支援に関しては、府立図書館が果たす役割は極めて重要である。予算の制限を前提とするのではなく、要望の傾向を分析した上でルール化の検討を進めることが望ましい。
 - ・書庫の収容量に関しては、現時点で直ちに限界に達する状況ではないものの、収納方法の工夫に加え、保存書庫の新設など、早期に検討を進める必要がある。
 - ・府内の各図書館とのネットワークの充実について、K-Libnetの活用や学校支援セットの充実など、学校支援の取組が進んでいることは評価できる。
 - ・探究学習の本格化に伴い、学校支援セットの重要性が増しているので、継続的に取り組んでほしい。
 - ・書誌データの重複解消に向けた取組については進捗が確認されていない状況にあるように感じる。
- （2）令和7年度事業計画について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
 - 委員意見
 - ・オープンデータに関しては、図書館の情報発信力の一層の強化を図る観点から、新たな取組の可能性についても検討を進めていただきたい。
 - ・国立国会図書館が提供するデジタルコレクションは利便性が高く、府立図書館においても幅広い年代の情報にアクセスできる環境を整備するなど、さらなる充実

を図ることが望まれる。

- ・他機関との連携においては、大学生の参画を得ることが有効と考えられる。例えば、美術系大学の学生によるパンフレットやカレンダーの制作など、創造的な取組を通して図書館活動の魅力発信につなげることができるのではないかと。
- ・高校生の不読率が高い。書店も減ってきている。学校図書館が魅力的な居場所となるよう、図書委員によるブックリストの活用や書籍の修繕研修の実施において協力を願いたい。
- ・高等学校文化連盟との連携については、図書館事業の充実や高校生世代との関係構築の観点から、検討の余地がある。
- ・図書館応援チーム（仮称）について取組が具体化され、次世代の図書館支援層が育つことに期待している。
- ・市町村立図書館のニーズに応じた書籍の修繕研修は有効な取組であり、今年度も実施してほしい。オンライン対応が困難な内容を含むため、体験型での実施が望ましい。
- ・大学生が書籍の修繕技術を習得できれば、小中高生に教える形で活用することが可能ではないか。小中高生も、自身で本を修繕する機会を得ることで、本への興味をもち、愛着を深めることにつながると期待できる。学生の力を活用することで、可能性が広がる。
- ・子ども食堂等の地域支援の場において、保護者向けの書籍を提供することは、府立図書館の認知度の向上や利用促進の一助となる可能性がある。
- ・府北部地域においては、府立図書館への直接的なアクセスが困難な状況にある。図書館サービスの提供にあたっては、市町村立図書館との連携が重要な手段となる。
- ・近年、YouTube や SNS 等を活用した広報活動が進んでいる。中でも Instagram は若年層や保護者層への情報発信手段として有効であると考えられる。広報媒体の一つとして活用を検討してはどうか。

（３）京都府立図書館サービス計画について

- 事務局から概要について資料に基づき説明
- 委員意見
 - ・非来館者サービスとオンラインサービスの統合は可能ではあるが、府立図書館が京都市に位置していることを踏まえ、北部など来館が難しい方へのサービスを明示する意味で、両者を分けておくことにも意義があるのではないかと。
 - ・ナレッジベースの最大の課題は利用方法である。設立当初に新しい図書館の方向性として打ち出したにもかかわらず、効率的に活用されていない現状を懸念する。コンセプトの維持・展開を含めて項目として残すかどうか再度検討してほしい。
 - ・このスペースは従来の閲覧室とは異なる活用を想定しており、ラーニングコモンズ的な使い方やイベント開催など、図書館の活性化を目指す象徴的な空間として位置づけてきた。
 - ・図書ボランティアを通じて母親たちの交流の場が求められている。ナレッジベー

スを活用し、絵本紹介や学びの場として提供すれば、図書館のPRにもつながるのではないか。

- ・サービス計画の検討案は京都府立図書館ならではの課題や特色が見えにくいように感じられる。事業計画でそうした課題を丁寧を示してほしい。